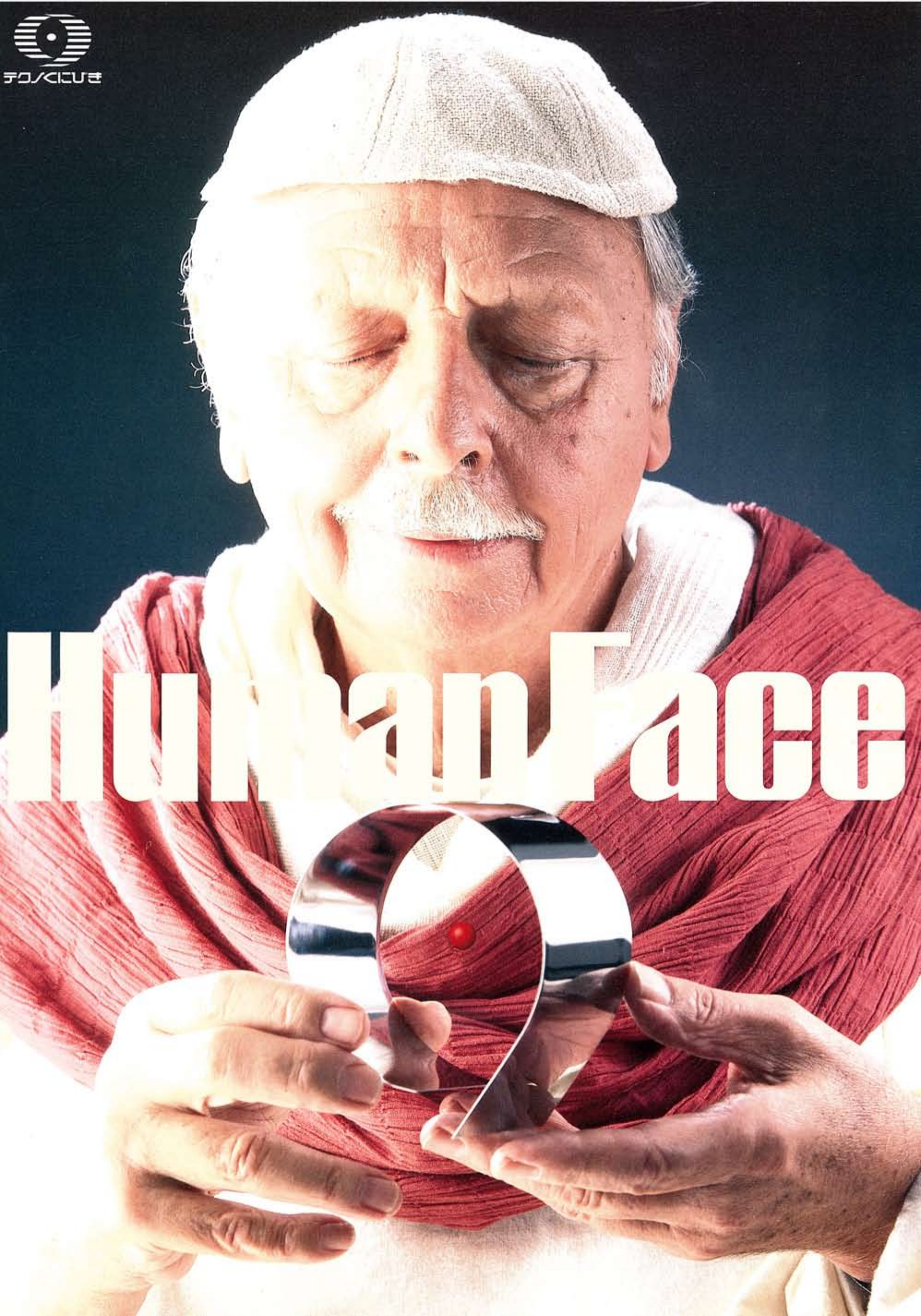


# Human Face



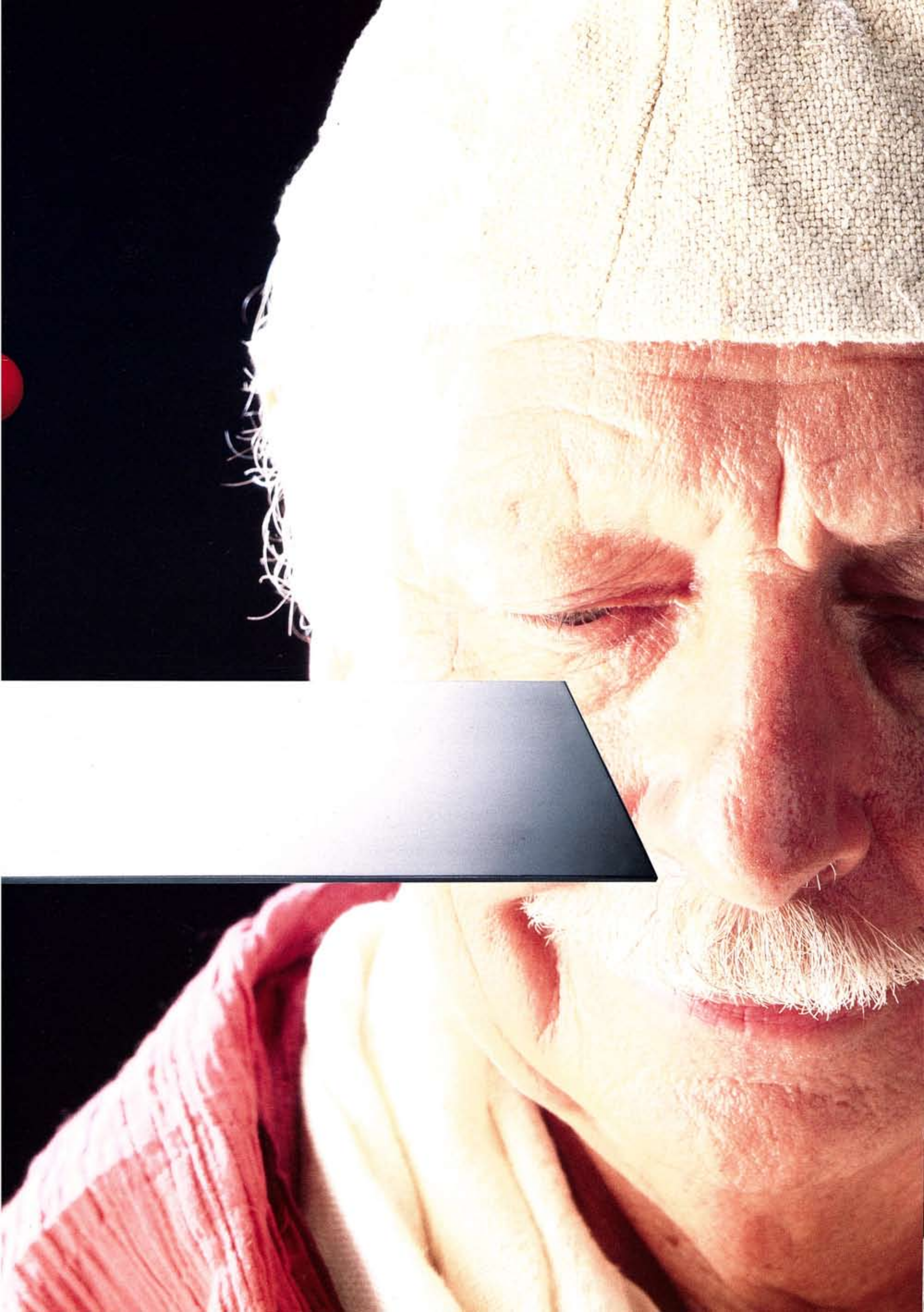


The difference between nature & humans.

# 自然と人間との「乖離」

私達の住むこの地球は、およそ46億年もの長い時間をかけて太陽からのエネルギーを受け、生物を育ててきました。そして、その歴史の中に人類らしき物が初めて登場してきたのは僅か2~3百万年前というごく最近の出来事です。これまで人類は自然に護られ包まれながら「心」を育ててきました。しかし、今この地球は確実にその調和を崩しています。幾多の天変地異を繰り返しても、この地球が健康でさえあれば自然の回復力で治癒することが出来ましたが、いつの頃からか、地球規模の大きさで猛烈に拡大し続ける人間の飽くことなき欲望が、人為的環境破壊をもたらし、それまで保たれてきた自然との均衡を崩してしまったようです。人間はこれまで優しく護り包んでくれたはずの自然とその大切なバランスを、自らの手で崩してしまったのです。「かけがえのない地球」、そこに棲息する人間も自然界の一部でしかすぎないという、あたりまえの事を認識すべき時です。離れてしまった形をもう一度、本来あるべき姿に戻す為に私達は今、何をすべきでしょうか。







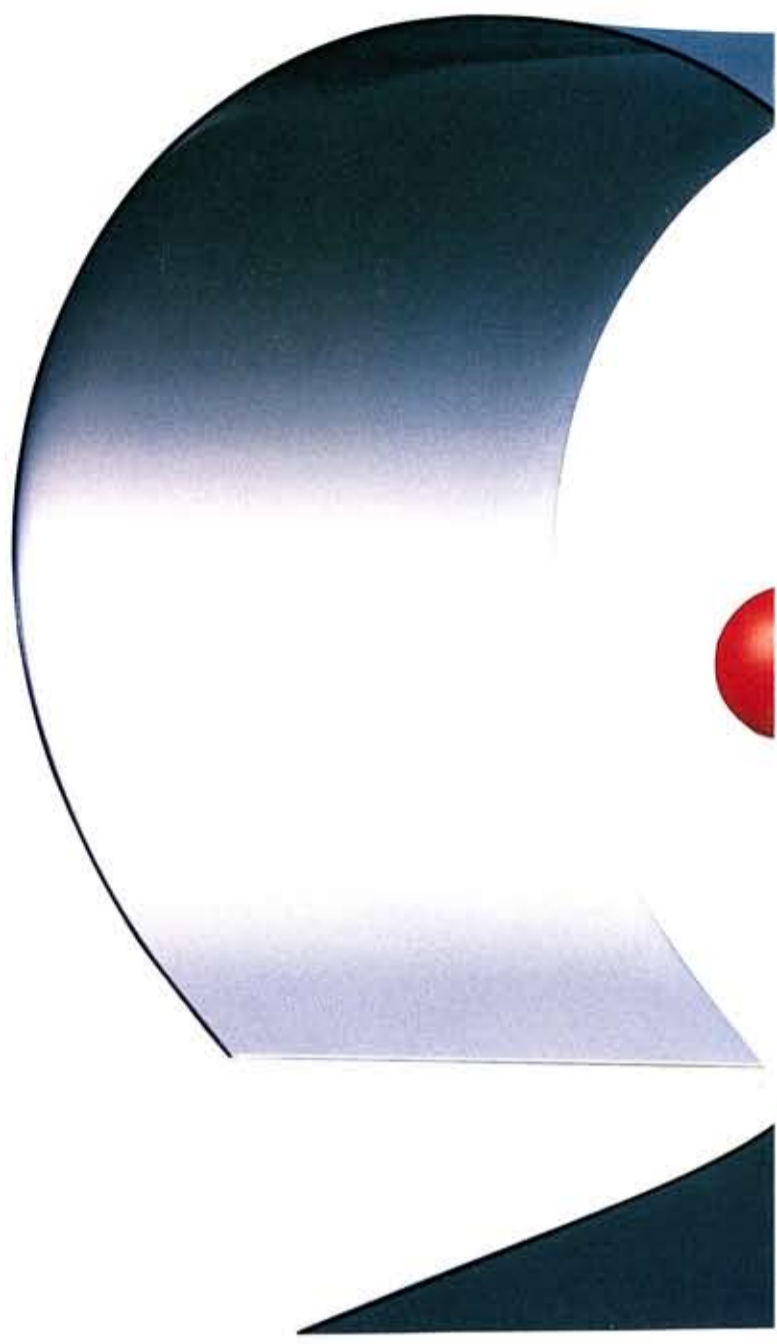
逆光を浴びながら浜辺に寄せては返す、波の一定のリズムを聞いていると、どうして人間はこうも優しくなれるのでしょうか。おそらくこの世界に生きとし生けるもの、その生命の起源が海に由来しているからなのに違いありません。そしてもう一つはこの海の中に漂う安らぎのある浮遊感覚。それはちょうど母の胎内で優しく包まれ保護されている時に似ています。

人間の発生、それは何億ともいう数の中から選ばれたただ一つの精子が、卵子と出逢うという受精の瞬間から始まります。そして卵子が分裂を繰り返し、背をまるめたような、どの生物とも見分けがつかない形が最初にでき、それは背をまるめたまま、やがて胎児の形を形成してゆきます。その連続する人間誕生の神秘は驚きと感動をもたらします。

*"Magatama," the shape of human origin.*

# 包み込めば見えってくる。 人間本来の形「まがたま」。

良く見るとこの「人間の発生の形」は何か非常に良く似ていることに気づきます。それはわが国の古代の装身具の一種である「まがたま」の形。イザナギとイザナミの男女神が結婚し国土と万物を生み出した神話の時代。遠い古代にあって、人々はとてつもなく広大な自然の中で生き抜くための生命力を数限りなく身につけようと、無意識のうちこの人間の発生の形「まがたま」を見事に具現していました。それがまったくの偶然であれ、やはり一つの驚きと不思議さを覚えるのです。現在、私達は人間の「心」という小さな球に、乖離していた自然というフィールドを包むように取り巻くことで、人間の発生の形である「まがたま」を発見しようとしています。この形を考えることで、それまで遠く離れていた「自然」と「人間」の二つの関係が一つにつながってくるのです。









かつて人間は身振りとか言葉、あるいは無言の中で、人間の「心」、又は、人間が生きていく上で大切なものを大人から子供、子供から孫へと伝えてきました。たとえば人としての生き方、優しさ、思いやり、喜び、悲しさ、平和、愛、命といったことから、もっと具体的には農業なら種の植え付けから育成そして収穫まで、漁業なら天候の読み方から魚群の探し方まで、その長い歴史の中で培ってきた大切な技術や知識を人から人へと伝達、継承してきました。しかし、

*Find the future in the present. Perfectly communicate the human heart.*

# 未来は、現在の中に。 確かに伝えたい 人間の心。

人から人へ伝えるということはただ単にその事だけではなく、そのプロセスの中で人と人がどのような形で接するべきなのか、人間同士の付き合い方が本来どうあるべきなのか、といったことまで学び、伝えることでもあるのです。人間は自分で歩き、自分で考え、自分で伝えるといった能力もっています。その力を生かしながら、未来へ確実に正確に伝えなければならないものがあるのです。「自然」と「人間」のあり方を確かに伝えたい。それが私達の願いです。









## ベーシックサイエンス部門

今日のように技術と科学が相互浸透し合っている現状では理論的に基礎科学と応用科学を区別することは困難です。日本は欧米の基礎研究を土台にし、それを改良、応用しながら科学と深く関わってきました。そしてこれからさらに求められているものは、日本が研究開発していくうえで創造的でありしかもユニークで独創的なもの、しかも国際的な視点に立ち、国際的なプロジェクトへ積極的に参加し人的にも資金的にも出来る限りの援助をしながら世界に貢献していくことだと考えます。

## バイオテクノロジー部門

バイオテクノロジーを文字どおりに訳すと生物技術という意味になります。生物を利用する技術は、科学が始まる以前からありました。たとえば、農業、酒造り、そういうプロセスの中で人間が育ててきた技術です。環境のコントロールはコンピューターで出来る可能性があるにしても本質的には、生物に依存して生物が昔から持っている能力に90%以上よりかかっているといえます。ですから、できるだけ生物の能力を生かすことがポイントです。たとえば近代の農業は、化学肥料や農薬、機械を使って近代化してきましたが、バイオテクノロジーは、育つ生きものの方に最大限の生命力を与える可能性を持っています。病気に対する抵抗力を作物に与えて、外から与える農薬をできるだけ減らすという可能性をさくります。科学以前の時代からあった人間の知恵と最先端の知識の融合。これこそ私達が研究していくバイオテクノロジーなのです。

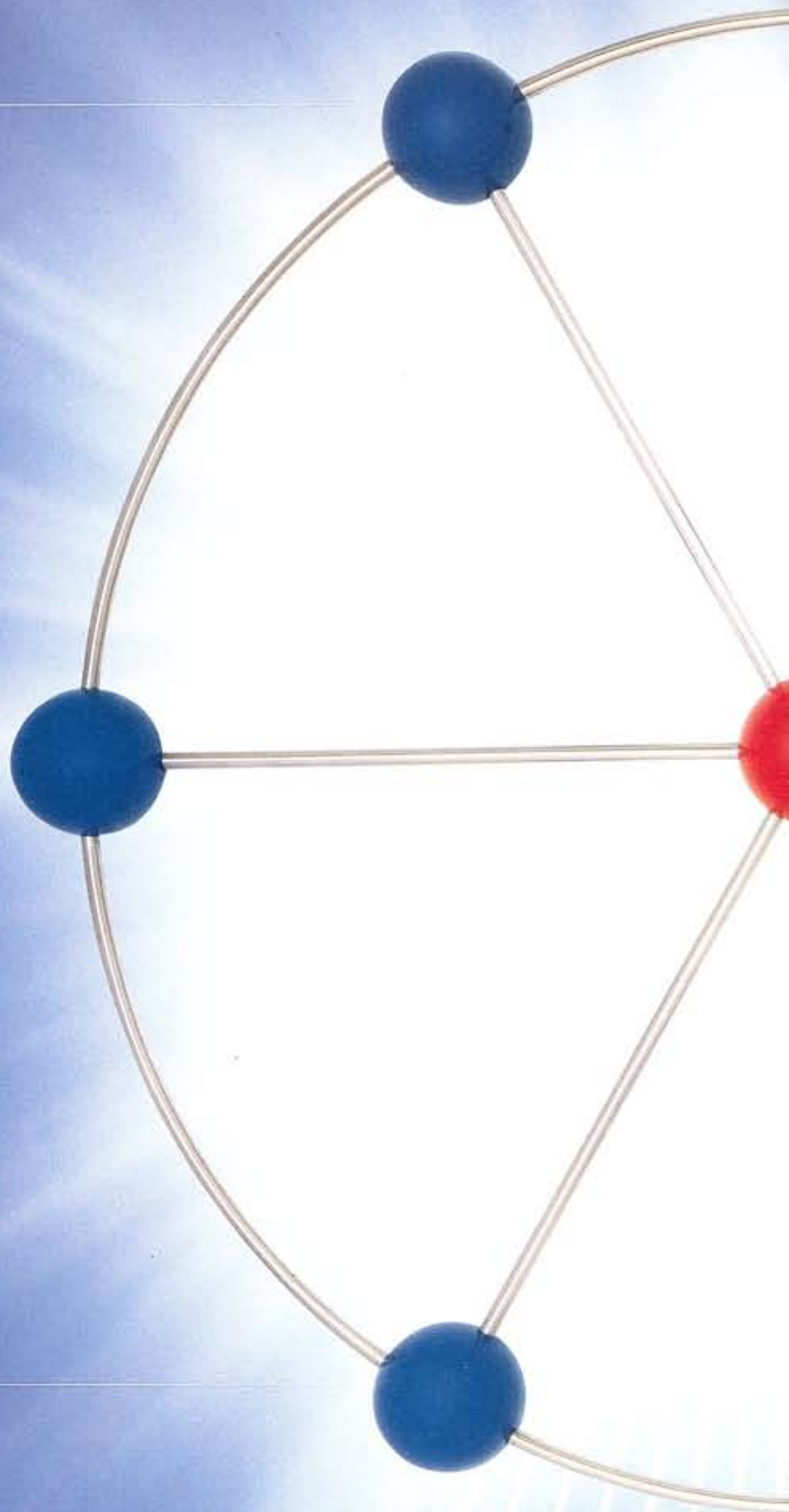
## アメニティ部門

産業構造の高度化、消費の多様化に伴い、地球的規模の環境破壊は深刻です。人間が誰でも気候、景色の良い快適な環境の中で暮らしたいと思うのは極めて自然なことであり、この快適な環境づくりが「アメニティ」です。私たちは、未来の子供たちのために素晴らしい環境を創り、残していかなければなりません。又、益々進む高齢化社会のあり方も問わなければなりません。老人のためのアメニティ対策もこれからの重要な課題です。さらに現代は都市における土地の急騰や人口増加によって、地下開発、つまりジオ・フロント構想に夢を託す方向にも向かっています。又、日本社会における経済的豊かさの中での余暇時間の増大、地域振興などからリゾート開発も進められています。私達はあらゆるアメニティの対策や推進によりよい形で取り組んで行こうと考えています。

BASIC SCIENCE  
ベーシックサイエンス部門

BIO TECHNOLOGY  
バイオテクノロジー部門

AMENITY  
アメニティ部門





## ネットワーク部門

情報化社会のいちじるしい進展は、より新しい電気通信技術などの活用によって、益々産業体系を刷新する傾向にあります。このことはさらに、産業区分を次第に不明確し、境界領域に両者の性質を兼ね備えた商品、サービスが発生しています。工業化社会にあつては従来大規模な設備投資を行つて、大量生産による規模の経済性を追求していましたが、高度情報化社会では、需要サイドにおけるニーズの多様化と供給サイドにおけるコンピュータ管理による差別化によって多品種小量生産へ向い、複数の商品、サービスがより重視される傾向にあります。自社内バッチ処理にはじまり、自社内オンラインシステム、取引企業間共同利用システムや、業界共同利用システム、国内ネットワーク型、国際ネットワーク型の「VAN・WAN」等によって、より人間のニーズに近い商品や、サービス、コミュニケーションが可能になります。

## メカトロニクス部門

IC、マイクロ・プロセッサ、センサー等の電子部品技術とソフトウェア・テクノロジーの進歩が産業用ロボットからカーエレクトロニクス、マイコン、カメラ等、に至るいわば頭脳的機械製品であるメカトロニクスを生んでいます。その中で今最も注目されているものが産業用ロボットです。IC、マイコン、ソフトウェアなどが中核として機械に知能を与え、センサーは機械に人間の五感にあたる視覚や聴覚をあたえています。今後もより人間に近い頭脳をもったロボットが生まれ、工場の中で人間の手や知能がどうしても必要とされた作業がロボットの手に委ねられ、人間が人間らしい労働環境に復帰できる可能性が高くなることはうれしいことです。

## マーケティング部門

情報通信を媒介にした新しい流通システムとして多様な情報の収集、処理技術に優れたメーカー主導、卸、小売主導型、受発注代行型等、様々な情報ネットワーク型流通システムを開発しています。又、物質を供給者から需要者へ物理的に移動することによって時間、場所的価値を生み出す経済活動「物流」にも、国際化の波による激しい競争が大きな変化を与えています。貨物の追跡管理、送り状の収集・追跡、自動車運賃計算、集計表や請求書等の処理、結果の配信、さらに荷主の受注オンライン代行、補完サービス等、受発注とそれに伴う物流のオンライン化を進めています。よりスピーディで、より安全、より確実な物の流れをもたらしていく機能とシステムづくりに貢献してゆきます。

NETWORK  
ネットワーク部門

MECHATRONICS  
メカトロニクス部門

MARKETING  
マーケティング部門









# 「人間らしさ」のためのハイテクノロジー

High technology for humanity.

18世紀産業革命以来の機械工業技術の歴史は人類の夢の実現への歴史でもあるといえます。人間がまず最初のロボットに夢を託したのはいつ頃からでしょうか。ギリシャ神話の中にロボットらしいものが召使として登場しているようです。そんな遠い昔からロボットは人間の素朴な夢であり、心優しいユートピアでもあったようです。そのころから遥か何千年隔てた現在、テクノロジーの高度な発達により、多くの子供達に夢と希望をもたらしたあの手塚治虫の不滅の名作「鉄腕アトム」のユートピアが現実のものになりつつあります。しかしその反面、チャップリンが「モダンタイムズ」で機械文明に振り回されている人間を強烈なタッチで風刺したように、機械と人間との関係の中で必然的に生まれた人間疎外なども依然として大きな社会問題となっています。人間がより便利な生活を目指して自ら生み出した便利な機械。この人間の「分身」に振り回され、こき使われるといった実に皮肉な事態が現実起きています。人間らしさの中にあるユートピアを実現するためのハイテクノロジーと、人間の欲望がつくりあげる人間疎外を含んだハイテクノロジーとの違いを今一度認識し、「人間らしさ」といった基本的なものの中から、改めてテクノロジーとのよりよい関係を考えることが必要です。今後も、人間の限りなく広がる様々な夢が具体的な形としてどんどん生まれていきます。ともすればそれまで大切にされていた「人間らしさ」さえあつてなく崩れることもありかねません。扱い方一つによっては、技術は人間の夢を喰いながら生きる巨大な「ばく」になってしまうのです。「人間らしさ」を維持し、また、とりもどすためのハイテクノロジーのありかたこそ、今私達が求めなければならないものではないでしょうか。



人から人へ、

*Human to human,*

心のネットワーク。

*a network of hearts.*

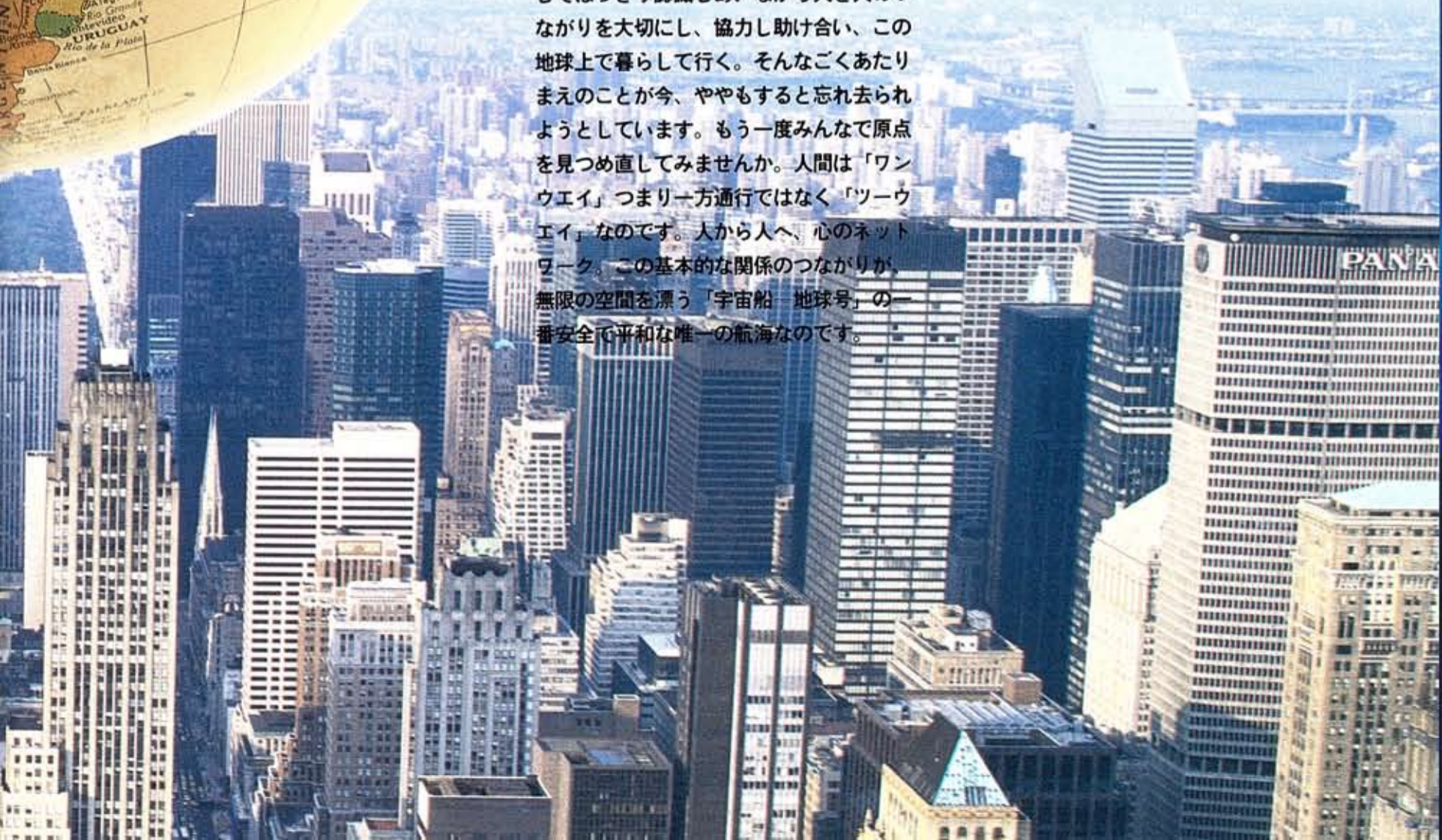
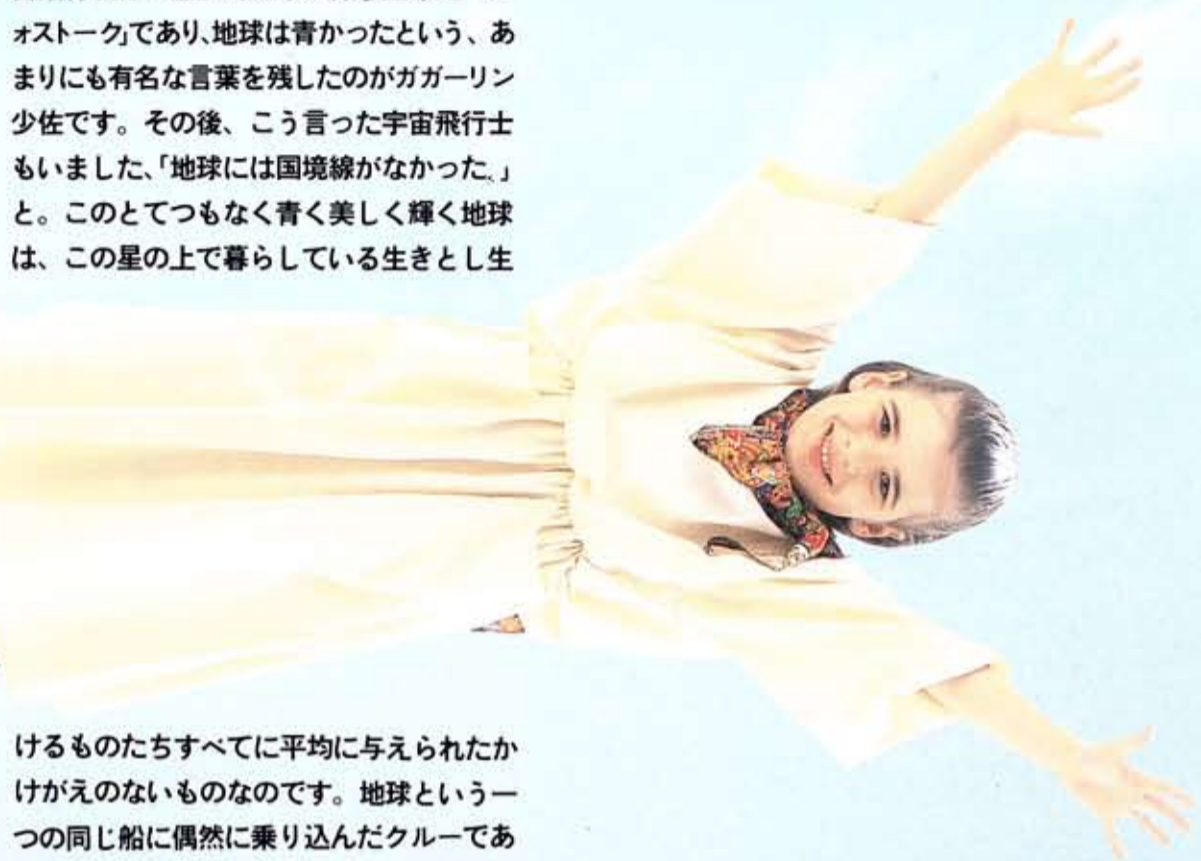




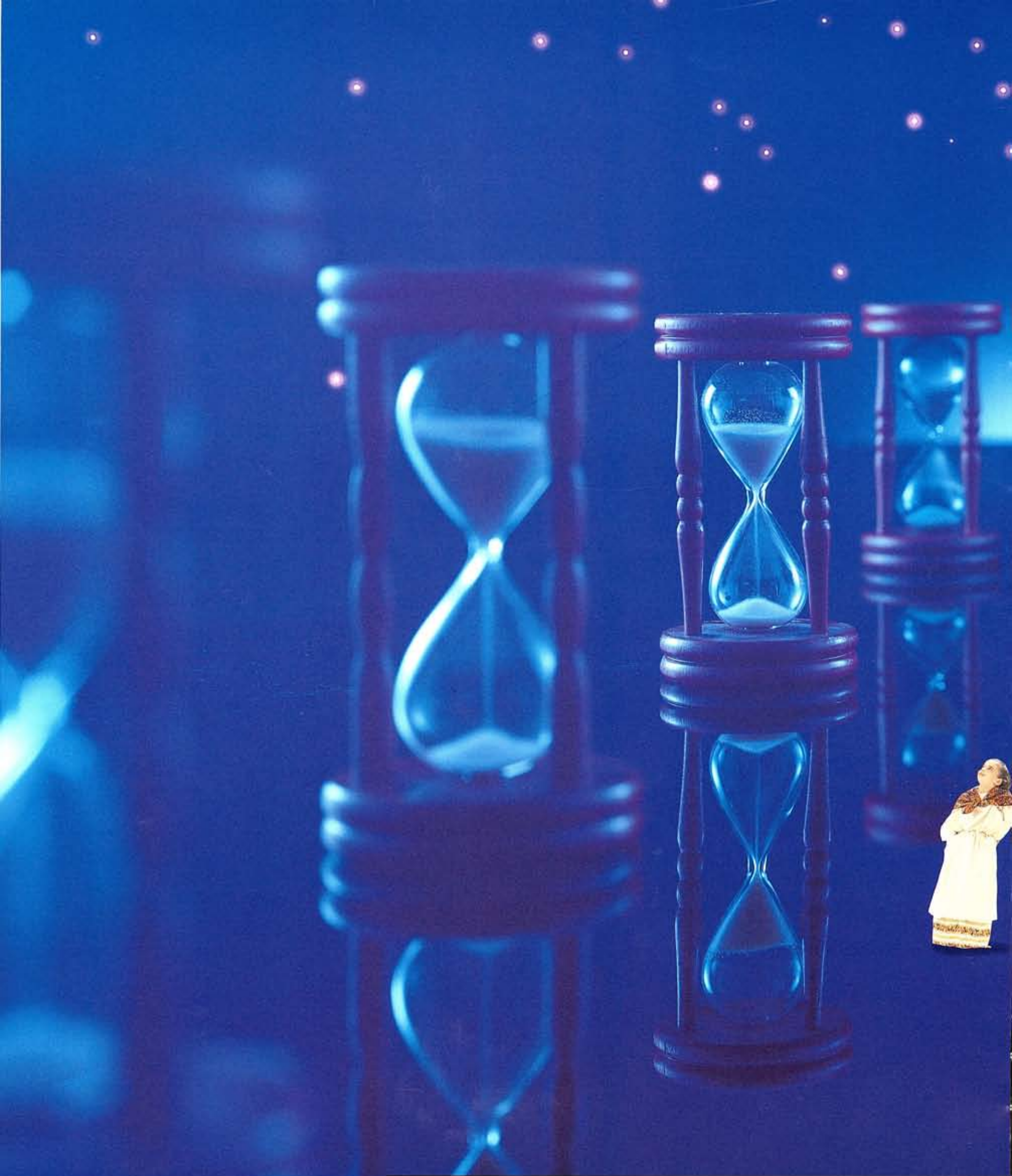


人間が有史以来、初めて宇宙船に乗り込んでこの地球から飛び立ち、無限に広がる広大な宇宙から小さな一つの惑星である地球を眺めた時、人間はとてつもなく深い感動の中からボツリ一言こう言ったのです。「地球は青かった」と。この人類最初の有人宇宙飛行船はソ連が1961年に打ち上げた「ヴォストーク」であり、地球は青かったという、あまりにも有名な言葉を残したのがガガーリン少佐です。その後、こう言った宇宙飛行士もいました、「地球には国境線がなかった」と。このとてつもなく青く美しく輝く地球は、この星の上で暮らしている生きとし生

けるものたちすべてに平均に与えられたかけがえのないものなのです。地球という一つの同じ船に偶然に乗り込んだクルーである生き物達がそれぞれ姿・形・色・言葉・物の捉え方や考え方といった違いを違いとしてはっきり認識しあいながら人と人のつながりを大切に、協力し助け合い、この地球上で暮らして行く。そんなごくあたりまえのことが今、ややもすると忘れ去られようとしています。もう一度みんなで原点を見つめ直してみませんか。人間は「ワンウェイ」つまり一方通行ではなく「ツーウェイ」なのです。人から人へ、心のネットワーク。この基本的な関係のつながりが、無限の空間を漂う「宇宙船 地球号」の一番安全で平和な唯一の航海なのです。







ユートピア……そこは限りなく美しい夢幻の世界。人間の想像しうるものすべてがここには存在します。清浄な空気、野山には小鳥達がさえずり澄みきった小川には魚が泳ぎ、どこまでも広がる庭園には美しく華やかな花が咲いています。ここは楽園でありエデンの園。又、ここには人間の持つあらゆる苦惱や絶望、そして死すらありません。

## 環境という名

当然老いることもなく、人々はこの時の流れのない悠久の楽園で荒立てず、騒がずのんびりと暮らすのです。まさに別天地であり桃源郷。しかし、人間は気づいたのです。現実の世界に暮らす者達はすべてこの楽園





## のユートピア

から下界へと何等かの理由で追放された者達ではないのかと。だから人間は本能的に楽園を夢想するのではないかと。しかし又、人間は気付いたのです。私達の住むこの地球の環境を変えることによっては、楽園は

可能であり夢ではないのだと。今、私達は真剣に環境という名のユートピアの実現目指して取り組み始めたのです。希望に燃え、理想をもち、夢を求め、人間らしくいきいきと暮らしていける環境づくり。from cadle to graue 「ゆりかごから墓場まで」そのライフサイクルの中で、私達が考えていかなければならないことは沢山あるようです。





# Human

人間らしさが

それぞれ顔がちがいます。姿・形もちがいます。  
声もちがいます。物の考え方も、生き方もちが  
います。ちがってあたりまえです。でもその  
それぞれのちがった集まり、融合し合いなが  
ら知恵を出し合って「協同組合テクノくにび





# nFace

見えてきた

き」という真っ白いキャンパスの中に「Human・Face」という夢を描きます。はたしてそれがどんな夢になるのか。まだ、誰もわかりません。でも動き始めました。人間として最も大切な夢を、ただの夢で終わらせないために。



いつでも逢えるね。

We can meet anyone



Humans

人間。





東海/中部電力

〒690 島根県松江市東本町5丁目16 Tel.(0852)54-1166 Tel.(0852)22-8565 FAX(0852)54-1769





アノノココロ

# Human Face

